

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	医療法人静風会 大垣病院		
事業所名	グループホームHIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1丁目178番地		
自己評価作成日	令和2年7月1日	評価結果市町村受理日	令和2年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人静風会大垣病院であり 医療との連携強い。特に平成25年より大垣病院内に、岐阜県認知症疾患医療センター等が設置され、認知症専門医はじめ専門スタッフからの協力体制も整っている。地域の中においても自治会、地域住民、地域防災隊、民生委員等通じ日頃から馴染みの関係が出来ている。非常時の際も心強い。ご利用者、ご家族、職員の安心に繋がっている。又現在に至るまで、身体拘束防止に取り組んでおり、各室に鍵なく見守りの中、利用者様は自由に行き来できている。自立支援に向け、毎日のように散歩、運動等を実施、認知症進行防止に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosvoOd=2172100881-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年7月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「馴染みの人間関係の中で安心して暮らす」を掲げ、地域の一員として管理者は自治会の理事を務め、運営推進会議では利用者全員参加でつながりを深めている。避難訓練に参加を得て「非常時や緊急時には声かけ合しましょう」「協力しましょう」と話し合いが出来ている。母体の医療法人は認知症専門医が在住し利用者の健康、認知症の重度化の対応など指導を受け家族も安心できる事業所である。散歩・外出を日課とし、居室の2階から階段を手引きで昇降し、身体機能の維持に努め、近隣住民と馴染みの関係を継続している。利用者一人ひとり意向に合わせて役割を持ち、自前のマスクを使いやすい形に仕上げ楽しんでる。拘束せず外出支援を重視し、自由にしたい事、やりたいことを職員も共に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は地域の中で、馴染みある人間関係作りが共に出来ており、ゆったりとしたケアに取り組み実践できている。	入り口に大きく理念を明示し、職員・家族など誰にもわかるようにしている。管理者・職員は地域住民と馴染みの関係をつくり、利用者ともゆったり暮らせるよう話し合っている。新職員には具体的に話し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災隊、運営推進会議等通じ、日常的に地域との交流が出来る	散歩を日課として出掛けている。食堂、自転車屋、洋品店、クリーニング店を利用したり、ふれあい祭りに参加したりして馴染みの関係を深めている。管理者は自治会の理事を務め、集会では、事業所の現状や認知症の話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談事等にも応じ、日常的に活かしている。地域住民より暖かい声かけも頂く		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者全員が出席、思い思いに報告され サービス向上に活かされている	馴染みの関係をつくる為、利用者全員が毎回参加し、個々の思いを話している。コロナ禍の予防対策や、災害時協力体制等積極的に話し合っている。会議録は全家族に公表している。4・6月は利用者だけの会議となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	権利擁護、保佐人利用の方がいらっしゃり、市や包括への情報交換、連携多くある。この度、身体拘束禁止の指針作成に関し市担当者との協力を得られた。又災害時対応マニュアル作成にも協力を得られた	書類提出や家族代行で出向いた折に、気になることや情報をたずねている。身体拘束禁止の指針作成、災害時対応マニュアル作成には幾度も足を運び助言協力を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員は身体拘束の弊害をしっかりと学習しており理解できているが当施設が2階にある為、申し訳ないが安全確保のためやむなく出入口に施錠している。補うように毎日のように散歩、ドライブ等を行っている。各室は鍵なく自由に行き来できている	委員会を設置し、新たに作成した身体拘束禁止指針を読み合わせ、記録に残し全職員で共有している。日課の散歩や精神デイケア通所、1階託児所の幼児と触れ合う等閉じこもりを予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全員が高齢者虐待防止関連法を学んでおり、見過ごされる事が無いよう注意し、防止に努めている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、日常生活自立支援事業成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる権利擁護、成年後見制度を学び、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定時など、十分な説明にて理解、納得していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夜間のお茶会等くつろげる時間を利用し、全ご利用者の意見などをお聞き活かしている。ご家族面会時にはご意見など頂くよう図っている。ご利用者全員出席の運営推進会議では大いにご意見を頂き運営に活かしている	家族には、面会時や便りで個別に近況報告して要望をたずねている。又外出、外食等自立に繋がるサービスについて丁寧に説明し協力を得ている。利用者には毎夜就寝前のお茶会や気になる時は個別に聞いている。運営推進会議の意見も反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案は、毎日の引継ぎ等、業務の中で意見交換し、必要時法人に申し入れ、反映させている	管理者は朝の申し送り時や、気になる職員には個別に話を聞いている。職員は連絡ノートに気づきや意見を書き込んでいる。管理者、職員同士話しやすい関係である。マスク不足は利用者と一緒に手作りし、消毒液不足は法人に要望し支給してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、向上心、やりがい等を持って働けるよう職場環境、条件等の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員に法人、施設内研修のほか、今後さらに、外部研修を受けることができるよう進めているが正直コロナ感染症の為 外部研修が中止となっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネには勉強、交流の場あり。職員同士は、関連他施設(特養)に移動した職員3名おり、お互い行き来し交流、サービスの向上に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は先ず、ご本人に安心していただけるよう、アセスメントをしっかり取り傾聴し、他のご利用者とも仲良く共同生活が送れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族に安心していただけるよう、困り事、不安等をお聞きし、こちらからも丁寧に説明、信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に取し、必要な支援を見極め、他サービス利用も含めた対応に努めている、精神デイケアを利用されているご利用者も見える		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たち職員は、ご利用者の長年培ってきたものには、とてまかなわれない事もある。職員の方が教えていただくことも多い。ともに共同生活を送っている。長年の主婦の知恵等教えて頂いている(干し柿作り等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご本人の様子、思い等報告、ともに支えていく関係を築いている。ご家族のない方には関係者と連携しご家族に代わって支援することもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に電話や手紙のやり取りできるよう援助している。他、同法人の中で行事等で再会される方もあり、楽しみにされている。コロナの件で面会が少なくなったのが残念	居間の電話で自由に家族と話ができ、手紙を出す支援もしている。現在コロナ渦で家族面会、外出制限があり、マスク作り、塗り絵、脳トレ、作品づくり、歌う等レクリエーションで楽しみを工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者全員がたまたま女性ということもあり、お互い支え合っている。できること、できないことがそれぞれあるが、補い合って生活されている。全員が何らかの役割をもっている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気でやむなく退去される方がいても、同法人の医療関係などに入られる事が多い。ご家族の要望、事情等により必要時面会、洗濯等の支援もさせて頂いている。他施設、病院への紹介もさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い、生活習慣を把握、ケアに活かしている。又ご家族に情報を得たり、ご本人の表情、行動などからもヒントを得て支援している。地域の中で長年暮らしていらしたご利用者、思いを最大限に汲んでいる	就寝前のお茶会は「坊主めぐり」でくつろぎ、食事の味が薄い、歌いたい等意向を聞いている。困難な場合は家族に聞くこともあるが日常の様子や表情から察知している。過去の生活習慣からできる事を探し意向に沿った役割を担っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを十分に取、環境、暮らし方など把握。これまでのサービス利用の経過など把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を把握し、グループホームの良さを活かし、ゆったりと過ごせるよう個別支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを大切に、医師、Ns、Cw等も含めた関係者全員で話し合いそれぞれの意見、アイデアを含め、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当職員を中心にモニタリングを行っている。面会時に家族から、受診時に医師の意見を聞き、本人の意向を優先して計画を見直している。退院時や状態の変化に合わせて即変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行って見直ししているほか、新情報により早め、適時変更し見直し、実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の事情により、他科受診、市役所への届け出などご家族の代わりも随時行っている。喜ばれている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の連携もあり、それぞれ買い物、クリーニング、衣類直しなどのかかわりの中で豊かな生活が来ている。HIPPOの地域の会議には管理者が出席し連携を図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、それぞれの主治医の下、健康管理(精神安定)が出来ている。急変時も即対応。安心した生活を送っている。特に今回のコロナ感染症対策では強い連携の元、予防に努める事が出来ている	全員が母体病院を主治医として、受診時には健康管理の指導を受けている。精神デイケア、週1回訪問看護を受けている。皮膚科、歯科の受診は家族を基本としているが代行することもある。コロナ渦時の家族面会も指導を受けて予防に努めながら行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、母体の大垣病院から訪問看護師がみえ、お互い情報交換し、必要時、主治医にも報告、連携ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療法人であり、それぞれの主治医の下、健康管理(精神安定も)が出来ている。急変時も即対応。安心した生活を送っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしないが、その分医療との連携深い。ご本人、ご家族の要望により同法人内の病棟に入院される事多い。ご家族、地域の関係者からも信頼を寄せられている。奇跡的に再入居されたご利用者もみえる	入居時に看取りをしない方針を説明している。身体等変化に合わせ、早期に主治医が家族と話し合い入院など対応している。快復状態に合わせ、退院後の再入居もかなえている。常に医療連携をとり支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が介護職の経験が長く、落ち着いて急変時、事故発生時など対処できている。定期的な訓練も受けている。6月より新人職員入職し同様に訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎回運営推進会議にて災害時の連携について確認、ほか、管理者が自治会防災会議に出席、協力体制を築いている。全職員も避難できる方法など、訓練により身につけている。法人指導の防災、消防訓練にも参加している	消防署指導の避難訓練を実施している。夜間想定訓練に住民の参加が得られた。近隣住民の避難所としても「非常時にはお互い協力しましょう」の話し合いが出来ている。水害時の避難場所は居室の2階か又は3階、屋上を考えている。備蓄は3階に完備している。	階段を利用した避難経路となる為、安全策を話し合い、更に地域住民の協力を得ながら、繰り返し、繰り返しの避難訓練を実施して欲しい。

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシー保護が出来ている。研修等あるたび、職員の接遇を振り返る機会を設けている。職員同士お互い、言葉かけや対応に注意できるよう図っている	接遇について、振り返る機会を作り注意あっている。特に声かけ時のトーンや語尾に気をつけプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎食のメニューは法人の栄養科管理栄養士が作成。ご利用者の意見、思いを伺いながら味付け、好み等援助させていただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のように散歩、買い物、ドライブ等があり、ご利用者の希望に沿って支援している。拒否時はゆっくりしていただいている。残念であるがコロナ感染症防止のため買い物は出来ず残念です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者全員おしゃれであり、年齢を感じさせない程。美容院利用される方、服に興味のある方、口紅をさすだけで満足される方など、それぞれ支援させていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理や好みのものをお聞きし、ご利用者、職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。それぞれのできることを見極め、楽しみながらしていただいている。法人栄養科より十分な食材が届くのも有難い	法人からの食材を利用し、利用者のできる事を役割として職員と一緒に調理、配膳、片付けをしている。利用者の「頂きます」を合図に職員もテーブルを共にしている。希望に応じ、おはぎ、太巻きづくり、すし屋からの出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ダイエットに取り組まれるご利用者もおられるが、栄養、水分が十分に確保できるよう図っている。定期的な血液検査では主治医より褒められている。現在糖尿病の方が2名いらっしゃるが医師と連携、支援出来ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きされる方、うがい薬を使用される方、拒否される方など、いらっしゃるがそれぞれ支援できている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツはずしに力を入れている。現在夜間のみオムツ使用の方1名、他トイレでの排泄(昼夜共に)を実施している。夜間でも原則トイレ、ポータブルトイレ使用としている	1名のみオムツ使用者があるが、失禁を恐れず自立支援に取り組んでいる。排泄パターンを把握し、夜間もトイレ誘導やポータブル使用の介助をしている。特に感染予防にトイレの消毒に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食事(ヨーグルト、根菜類など)、飲食物の工夫のほか、運動への働きかけ等、個々に応じて取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、午前中ゆったりと入浴される、夕方希望の方は現在居られず、拒否される方はいらっしゃらない	受診等、外出予定に合わせて入浴日を変更して対応している。一人ひとりの希望にあわせ、歌ったり、お喋りしたり、ゆったり入浴できるよう支援している。柚子、菖蒲湯と季節感を得られるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜のお茶会あり、ゆっくり話を(回想など)した後、就寝。夕食後に休まれる方も1人みえる。寝具などの清潔にも気を付けている。冬エアコン、夏クーラーなどの使用も其々。各室の寒暖計を見て調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員、薬に対し理解しており、服薬支援が出来る。症状変化の報告もできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技、趣味に応じ、裁縫、手芸、塗り絵、作品作りなどの支援をしている。他散歩、ドライブ、階下の幼児とのふれあい等、楽しみごとの支援をしている。また古いやわらかいタオルを集め、おしりふきを作り掃除などにも活用している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日のように散歩、買い物、ドライブ等があり、ご利用者の希望に沿って支援していた。地域や法人のふれあい祭りの予定がある。外食が現在できず残念、代わりに、出前を取っている。散歩はマスク着用し涼しい時間を見て行っている	天候に合わせて散歩を日課にしている。特に閉じ込めないケアを意識して、買い物、外食、イベントの参加、ドライブ等利用者の要望にあわせ外出をしている。コロナ渦で散歩にはマスク(自作)を着用している。現在、外出を控え、買い物は職員が代行、出前のランチを利用している。	

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望、力に応じ、お金所持や、使うことへの支援できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるよう、居間に置いている。散歩しながら手紙を出しに行くこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう作品を展示したり、居心地よく過ごせるよう工夫している。食事時など、全室窓開放し感染防止のこともあるが、悪臭もない。全室空調設備完備されているが、室内の温度を測り、ご本人の様子、希望により調節している	日常の手作業の塗り絵、折り紙、季節を表した共同作品を多く飾っている。手づくりカレンダーで日にちを確認している。消毒、換気に注意をはらい清潔で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内のソファにて音楽を聴いたり、居眠りしたり、気の合った方同士話したりと有効に利用されている。いつでもお茶の用意が出来ており、支援出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人と相談し、好みの写真、家族写真、ご自分の作品などを置いている。さっぱりとしたお部屋ご希望の方には希望通りとなっている	利用者が、モップをかけ、こまめに換気をして清潔に気をつけている。壁には自作作品を張り、机、三面鏡を持ち込み、人形や家族写真、化粧品等を使いよく配置し好みの居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターがなく、廊下の手すりがないが、その分職員が一人ひとりの力を見極めており手引き介助など適時行っている。要介護度が下がりご家族が喜ばれた例もよくある。転倒事故など無いよう支援している。		